



平成11年 1月25日

青森県教育庁文化課

三内丸山遺跡対策室

〒030-8540 青森市新町2丁目3-1  
TEL (0177) 22-1111 (内5251・2)  
FAX (0177) 34-8280

三内丸山遺跡対策室 松原分室

〒030-0813 青森市松原1丁目14-11  
TEL (0177) 74-0455  
FAX (0177) 74-0456

# 三内丸山通信

## 縄文のものづくりを考える

### 三内丸山遺跡・縄文フォーラム

さる一月二十九日、東京・有楽町ホールで、「三内丸山遺跡・縄文フォーラム'98」を開催し、大勢の方が聴講されました。今年で四回目になります。

今回は、「縄文人のものづくり—縄文のテクノロジー—」をテーマに、講演や事例報告、パネルディスカ

ス、使い方」について小林正史さん（北陸学院短期大学）、「ヒスイの加工」について木島勉さん（糸魚川市

まず、話題提供として今年度の発掘調査の概要について報告しました。

続いて「縄文土器の作り

方、使い方」について小林正史さん（北陸学院短期大学）、「ヒスイの加工」について木島勉さん（糸魚川市

教育委員会）の講演がありました。小林さんは、三内丸山遺跡から出土した円筒土器の壊れ方や使った時の

痕跡を分析し、実験結果や民俗事例を参考にしながら、技術の工夫や調理の仕方について

木島さんは、発掘調査の事例をもとに加工技術の成り立ちや行程についてまとめました。

午後は三内丸山遺跡から出土した石器、土偶、木器、骨角器について、それぞれの作り方の事例報告を行いました。

最後に、「縄文のものづくりを考える」というテーマで、小山修三さん（国立



## 冬の三内丸山遺跡へ行こう！

冬の三内丸山がとっても熱い！

来る、二月一日から四日まで、三内丸山遺跡において、冬のイベントを開催します。



見学路に並ぶミニかまくら

市民の皆さんによる雪像づくりやミニかまくらによる雪の回廊、広い遺跡に降り積もった雪を利用した様々なイベントや体験学習のほか、縄文鍋などの暖かい食べ物を用意する予定です。

また、県屋外広告美術協同組合青年部の協力により、昨年の市民雪像やイルミネーションを撮影した写真のパネル展示を行います。

雪像作りの参加者やパネル展示の写真を募集中です。この時期は県内の冬のイベントがもりだくさん。冬の三内丸山遺跡にぜひ足を運んでみて下さい。

民族学博物館）をコーディネーターに、小林正史さん、木島勉さん、九戸真樹さん（青森県庁）、山田昌久さん（都立大学）が加わり、パネルディスカッションを行い、縄文時代の漆や土器づくりなどについて、いろいろな視点から活発な議論が交わされました。

また、ロビーではパネルや出土遺物の展示を行いました。





# 海外関連遺跡調査 in 韓国

連載 ⑩

## 『木製品』

三内丸山遺跡や縄文文化と関係のある海外の遺跡を調べるために、今年度は韓国の先史文化について調査を行いました。各地の博物館や遺跡を実際に踏査し、関係者の話、展示されている遺物などを通じて、三内丸山遺跡や日本の縄文文化との関係について検討しました。

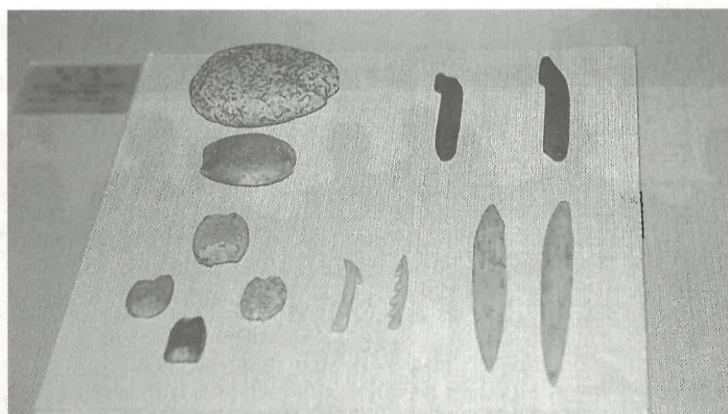
ソウル市内にある、韓国の新石器時代（日本の縄文時代）最大の集落跡である岩寺洞（アムサドン）遺跡では、櫛目文土器（くしめもんどぎ）と呼ばれる縄文

土器と形のよく似た土器が数多く出土しています。さらに、東北部の海に近いヤンヤン郡のオサンニ遺跡や釜山市の東三洞（トンサムドン）貝塚からは、土器、石器、骨角器など日本の遺跡と同じような遺物が出土しています。

また、ソウル大学の任教授から、朝鮮半島の新石器時代人が海流に乗って青森の方まで来た可能性を指摘されるなど、今回の調査は縄文時代における両者のつながりを再認識するものとなりました。



岩寺洞遺跡の復元住居



### 青森を全国にアピール！

#### 活彩あおもり大祭典

さる一二月四日から六日まで、東京水道橋にある東京ドームで、文化観光立県宣言記念イベント「活彩あおもり大祭典」が開催され、約三十八万人の来場者でにぎわいました。

三内丸山遺跡は入り口近くに設けられたコーナーで、紹介されました。

土器、土偶などの出土遺物の展示、最新情報の紹介、県内の縄文遺跡のビデオや最新縄文映画の上映、縄文おもしろクイズなど、わか

三内丸山遺跡の低地から、普通は残りにくい木の道具が出土しています。すべて縄文時代前期中ごろ（約五五〇〇年前）のもので、出土した木製品は容器類（鉢や台付き皿）、櫛、掘り棒、杭、柱、その他棒状や板状に加工されたものです。中には黒色と赤色の漆を塗り重ねた漆器もありま

す。木製品に使われている木の種類を調べたところ、容



りやすく楽しめる構成でした。なかでも、現地のもと同じ大きさの大型掘立柱建物の復元、実物の木柱や盛土の断面剥ぎ取りは注目を集めました。

器や櫛、掘り棒、杭、柱ではクリが大きな割合を占めました。また、細い棒や板状に加工されたものにはアスナロが多く使われていました。このことから、縄文時代の人々が用途に応じて木の種類を選んで使っていたことがわかります。縄文時代の「適材適所」と言えるかもしれません。

### 今年も大勢の人が参加しました

今年の体験学習は、土偶作りなどの一日のメニューの他に、二日間連続のメニューも新設しました。弓矢の実験や魚釣りなど、作ったものを実際に使うことで、縄文人の生活を実感し、楽しんでいただけたと思います。

また、校外学習など団体の体験学習も増え、七十件以上の参加となりました。今年の体験学習には四五〇〇人以上の参加をいただきました。来年度も引き続き行う予定ですので、ぜひご参加ください。

### 情報展

二月一日より、第四回最新情報展、「今年度の発掘調査から」を始めます。今年話題になった環状列石、道路跡などのパネル写真や、泥炭層からの出土遺物などを展示します。

### 三内丸山遺跡の「ごあんない」

- 見学時間 9:00～16:30（入場は16:00まで）
- ボランティアガイドの定時説明は昨年11月30日をもちまして終了しました。
- 交通手段 市営バス 青森駅から運転免許センター行き
- その他 三内丸山遺跡前下車 園路は除雪を行っていますが、歩きやすい靴でおこしください。



漆塗台付皿の出土状況